名古屋市【愛知県】歷史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業

中部地方

■協議会メンバー：名古屋市教育委員会事務局文化財保護室／名古屋市観光文化交流局ナゴヤ魅力向上室／同局歴史まちづくり推進室／公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー他

■構想策定年度：平成二九年三月

■補助事業期間：平成二九年九月一日～平成三〇年三月三一日

歴史文化基本構想の概要

本市構想では、名古屋城下や熱田神宮周辺など「名古屋を代表する文化財」と市域全体に広がる「身近なまちの文化財」に分けて課題を整理した。前者の重要性は市の主要計画などでも取り上げられており、着実に名古屋らしい魅力を創出し、歴史観光につなげていくことを目指す一方、後者についても市民参加の調査体験等でその価値を明らかとし、活用につなげていくことを目指すこととした。

観光拠点形成の方向性

- 名古屋城や熱田神宮の価値を高める
- 周辺地域に集客の拠点をつくる
- 中心部と周辺部の拠点それぞれの価値を高め互いにつなぐ

観光に関する課題

- 観光地が点として捉えられがち
- 観光の目的地が少ない
- 文化財の認知度が低い
- 外国人の受け入れ体制が不十分

事業概要

「ＧＯ！ＧＯ！しだみ古墳群」

情報発信

名古屋市守山区に所在する国指定史跡 志段味古墳群を楽しみながら巡るためのスマートフォン・タブレット端末用のアプリを作成した。ＶＲ（仮想現実）・ＡＲ（拡張現実）技術を用いて、古墳の埋葬施設や1400年前の風景を再現。また、実際に古墳を巡りながら楽しむＲＰＧを通して、史跡や古墳時代の理解が深まるアプリとなった。

KPI ダウンロード数：100(H28)→1,000(H31)

アプリと連動した文化財観光マップ

情報発信

観光拠点である名古屋城、熱田神宮から周辺地域へと広がる地域を中心に、歴史文化基本構想の関連文化財群を紹介するマップを作成した。山車の３Ｄモデルが立ち上がるＡＲマーカーなどを組み込むとともに、構想策定の際の関連文化財群を取り上げて観光資源とするマップとなった。

KPI ダウンロード数：100(H28)→1,000(H31)

子ども向け文化財観光ガイドブックの作成

情報発信

名古屋城・熱田神宮の他、古墳・古窯を紹介する観光ガイドブックとなり、子どもたちの視点で文化財を楽しめる内容となった。博物館施設などの紹介も加えたため、子どもたちがこれを見てみたいと家族に観光の行き先として提案することが期待できる。

KPI 市観光客・宿泊客数：
43,310,000人(H28)→47,000,000人(H31)

集客施設を起点とした文化財ウォーキング

普及啓発

観光拠点を起点としたウォーキングマップを、観光基盤情報アプリと関連づける形で3種類作成し、うち１種類を用いて効果検証のために、熱田神宮から周辺の新田開発地帯へ誘導するコースを歩くイベントを行った。観光文化財アプリ等との併用により活用の幅が広がることが確認できた。

KPI イベント等参加者数：200人(H28)→220人(H31)

成果

① 外国人の情報利用者が増加

名古屋城・熱田神宮の来場者をみても海外からの観光客の増加傾向が認められる。29年度観光文化財アプリ「なごや歴史探検」のダウンロード者の３割程度が中国語圏のユーザーであった。

② 観光資源として期待される、まちの文化財

マップなどで取り上げた文化財は指定文化財に限らなかったが、ウォーキングなどでも新しい発見があったと好評であった。こうした地域の文化財の「見える化」が十分に観光資源化につながることが確認できた。